

単元名 につぼんのうた みんなのうた(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想、声部の役割を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070204_001

【教材名】もみじ（歌唱 共通教材）

(P. 34～P. 37)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「もみじ」（共）を情景を想像しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き、学習課題をつかむ。 ★ せんりつの重なりを感じ取りながら歌おう ○ 教科書の写真などをもとに、情景を思い浮かべる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 番、2 番の歌詞の言葉について、注釈を参考にして内容を理解する。 「夕日に照る山」…オレンジ色 「かえで」…赤 「もみじ」…赤 「松」…緑 「つた」…黄 ○ 上のパートの旋律のもつリズムや流れを意識して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各段の旋律が、「続く感じ」か「落ち着く感じ」か感じ取る。 ○ 情景を思い浮かべ、曲想に合った声で上のパートを歌詞唱する。 ○ 下のパートを歌い、旋律同士の関わりから、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 下パートの旋律を、聴唱法で歌う。 ・ 楽譜を見ながら、旋律の関わりについて気付いたことを出し合う。 ・ 曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ○ グループや全体で旋律の重なりや響き合いを感じ取りながら、情景を思い浮かべて二部合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二部合唱の曲で、大きく2つの部分に分かれていることに気付かせる。 ・ 詩を読んだり範唱を聴いたりして、情景を思い浮かべ、様子などを捉えさせるようにする ・ 色彩感あふれる秋の山や川の様子をつかませる。歌詞に歌われている色を具体的にあげさせるとよい。また、校庭などで拾わせてもよい。 ・ 旋律の動きに合わせて、自然に強弱をつけさせる。 【共通事項】旋律 ・ 「タンタタタンタン」のリズムが多用されていることに気付かせる。 【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。 【評】歌詞や曲想を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ 全休符について理解し、1小節あとから上パートを追いかけることに気付かせる。 【発展】全休符 ・ 3段目は上パートと同じリズムで動いていることに気付かせる。 ・ 4段目の最初は追いかけても同じリズムでもないことに気付かせる。 【評】旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 互いのパートの音をよく聴き合うように助言する。 【共通事項】音の重なり ・ 下パートのリズムや音程が不安定な場合は、教師と一緒に歌ったり、鍵盤楽器でメロディーを弾いたりするとよい。 ・ つられないように必要以上に力んで声を出してしまう傾向があるため、どちらの声部も同質で柔らかい響きで歌うようにさせる。 【評】互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】